

the People

元気なまちには 元気な主張を続け
元気に行動する 市民がいる

the people (ザ・ピープル)
2010年 4月発行

発行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル
代表者：吉田 恵美子
所在地：福島県いわき市小名浜字本町11-1
まちづくりステーション小名浜内
TEL/FAX：0246-52-2511
E-mail：the-people@email.plala.or.jp
URL：http://www.iwaki-j.com/people/

ヨークタウン大原店オープン!!

4月1日ピープル5店舗目の古着リサイクルのお店がオープンしました。場所は「ヨークタウンアクロスプラザ大原」です。この建物を管理運営しているのは大和情報サービス株式会社です。ピープルが古着のリサイクルを通し社会貢献していることを評価していただき、また企業としての社会貢献事業の一貫ということもあり今回のピープル出店が実現したのです。



ピープルの直営店（PCCピープルコミュニティセンターの略）は4店舗ありますが、そのうち3店舗は町なかの路面店です。この場合駐車場確保が難しくお客さんに御不便をかけているのが現状で、長い間本会の懸案事項でした。それだけに今回のことはピープルにとって夢のようなお話で、開店までの期間ボランティアスタッフで準備に取りかかりました。

オープンした店内は22坪と大変広く婦人服、着物や帯、紳士服、子供服などコーナー別に豊富な品揃えとなっています。古着といってもタグが付いたままの物、新品と見間違えるほどの物など楽しさ溢れる店内となっています。



また、店内には「工房ぴいぷる」というリメイク品を製作販売するコーナーがあります。ここでは、定期的に教室を開催しています。本会が独自に生産しているリサイクルワールワタによるフェルト手芸教室や浴衣地を活用した布ぞうり教室などです。フェルト手芸は今、全国的に人気。可愛い小動物やお花のブローチなど簡単に作ることができます。

お客さんのなかには親子で見られ、お母さんが洋服を選んでいる間、子供さんは人形作りに熱中といった微笑ましい光景もみられます。

どの品も安価で提供しています。ヨークタウンにお越しの折りは是非覗いてみてください。皆様のご来店をお待ちしております。お問い合わせは下記にどうぞ

◆ヨークタウン大原店&工房ぴいぷる
いわき市小名浜大原字東田96番地
TEL/FAX 0246-52-1881

平成21年度地球環境基金助成事業終わる

1年をかけて実施してきた地球環境基金による平成21年度の助成事業「いわき発ファイバーリサイクル地域外拡大事業」が終了しました。

いわき市外への古着リサイクル活動の広がりを目指した本事業の展開により、平成20年度まで連携のあった福島市・須賀川市・田村市周辺に加え、郡山市・相馬市・二本松市に合計5箇所の古着回収拠点が生まれました。この動きは、今後も加速し、南相馬市や石川郡浅川町への波及も平成22年度には予定されています。

こうした動きは、地球環境基金の助成事業として20年度からスタートしました。それ以前から県内各地から宅配便によって届けられる古着の量は少なくありませんでした。そして、お礼の電話に対して必ず返ってきたのが「私の地域にもこんな仕組みがあったらいいの…」という言葉でした。古着のリサイクルはいわきだけで特別に行えるものではなく、どこの地域の方たちでも普段の生活の中で協力できるような仕組みを作り上げることが必要なのでは…。こうしたわたしたちの思いに、それぞれの地域の福祉・子育て・国際交流・まちづくりなどさまざまな分野に関わる団体の方たちが応えてくださって、県内各地への広がりが実現してきたのです。

例えば、二本松市では市民交流センターの館内、「こどもの広場」入口に回収ボックスが設置されています。そして、この広場を運営しているNPO法人子育て支援グループこころの皆さんを中心に、地域の障がい者福祉団体や手芸サークルの方たちとの連携により古着を有効活用する仕組みづくりが進められようとしています。

平成21年度末には、これまでの事業の進展を踏まえ、古着リサイクル活動に関わろうとする団体の方たち



にとっての指針を示したいとの思いで、本会の取り組みの概要をまとめた「古着リサイクルのすすめ」を編集。地球環境基金の助成事業の一部として作成しました。この冊子が他の地域に古着リサイクル活動のきっかけ作りになればと期待しています。

つばやき

古着と人生

①

古着との出会いは17年前。義理の妹の代理で参加した海外研修。それはドイツとデンマークに於ける環境問題と福祉施設訪問の研修旅行だった。帰国するや早速「地球の裏側を歩いて」という冊子を作ることに。代表のお宅にワップロを抱え毎晩通う羽目になった。庭の一角にプレハブ小屋があった。ギッシリ天井まで届く古着の山。編集の合間にその山に登って見た。驚いたことにタグが付いたままの物が、私が着ているものよりかはるかに立派なものがあるではないか。「何これ」と叫んでしまった。▼当時も市の職員として様々な活動に取り組んでいたから、これ以上忙しくなるの御免だった。「絶対ピープルに入りませうぞ」と皆さんの返事は素っ気ないものだった。にも関わらず進んで仕分け作業やバザーに参加。たちまち立派な（？）ピープルのメンバーになっていた。「ミイラ取りがミイラになるとはお前のことだ」と今は亡き兄によく笑われたものだ。▼市職員の先輩に古着のリサイクルの話をする、大いに賛同してくれた。その上、組合事務所にもリサイクルボックスを設置してくれた。間もなく先輩は市役所総務課に掛け合ってくれた。そして現在の位置に大きなリサイクル小屋が設置されたのである。以来いわき市における古着リサイクルの機運は一気に高まったと言っても過言ではない。▼当時のピープルは任意団体だったから勿論トラップなど無い。回収については運んでくれる方ない。その姿は異様だったのかもしれない。「夜逃げでもする恰好だよ」「ゴミでも運んでみるの？」等々職場の同僚に笑われた。しかし、その時はもうピープルの素晴らしさやリサイクルの重要性を認識していたから、同僚の言葉は余り気にならなかった。▼在職中、組合女性部の役員をしていたこともあり毎月発行する機関紙の裏面を活用して海外研修の内容やタイ支援活動の様子、リサイクルの話などを掲載させて頂くことができた。退職しては7年。「相変わらず古着やってんのかい」と多くの方から声を掛けられる。「ここまで来た古着リサイクルの流れをもう止められないし、一生続けていきます」と答えることにしている。それにしてもあの古着との出会いがなかったら今頃はどうかだったのかしらとつぶやく私である。(K)